

44. 8. 11 発行所 釧路アスナロクラブ編集部

事務局だより	1
楽しい夏の釧路	1
経営者の責務	1
職場の青少年が背負っているもの	
事業内職業訓練生を通じて	2
交通戦争	3
お別れに際し	
あすなるくらぶの発展を祈る	4
仕事をしておかしくない部下	4
忘れられた会報「あすなる」	5
私の家族	6
禁煙二年の弁	6

# 事務局だより

一月二十五日 於泉屋午後三時

第八回定時総会開催

会長、副会長、事務局長、事務局次長(二名) 卸部会正副部長、工業部会正副部長留任、小売部会部長佐々木雄二、副部長横山寿人両氏に新任、決算報告、予算案審議原案通り可決小野会員退会の旨報告あり、

二月例会 二月二十一日於水産ビル

道議会議員 渡部五郎氏の講演及スライド撮影。

「欧州及韓国を旅行して」と題する海外視察談。

三月例会 三月七日於ニユー八浪

当初予定していたエンバイヤクリーニング釧路支店長仲氏の講演は同氏の急病のため、フリートーキングに変更

米田工業部会部長、佐々木小売部会部長より部会報告及び佐々木今

田、手林三会員の五分間スピーチ

四月例会 四月七日 於ニユー八浪

一 数会員の新人社員教育について

一 儀国会長の手形について

五月例会 五月七日 於ニユー八浪

一 小林事務局次長の物品税に就て

一 森下会員の健康について

一 渡部会員の自家用自動車運転事故の際いかに処理したらよいか

六月例会 六月七日 於ニユー八浪

一 日本酒の啣酒会

一 手林儀俄両会員の現在の会社業務について

一 大宮会員より同会員が勤務する丸文と 全堂他教社との企業合併について

七月例会 七月七日 於ニユー八浪

市警交通課長より交通法規講習会

特に今例会には会員所属する会社の運転者並びに配達責任者も交えて行った。

# 楽しい夏の釧路

稲垣友則

全国的に不順といわれて来た七月上旬の気候もどうやら近ごろになって夏型のそれに戻った様である。

そしてこの釧路も、この二、三日釧路らしい夏の陽差しを受けている。街行く人々の服装も男は男なりに、

女は女なりに、若者は若者のように年寄りには年寄りのように、それぞれ似合ったスタイルで夏のカラーを浮彫りにしている。  
夏の風物詩といえば、蚊取線香花火涼み台、うちは、氷水、風鈴であるがこれらのうち一時は姿を消したのも又扇風機クーラー等の進出と相俟って再び私共の目の前にその姿を表した事は夏の風情を一段とました事として楽しく写し出されている。  
時によっては最高気温三十何度と上昇し流れる汗は滝の如くと形容される所も日本各地に見聞されるが私共のすむこの釧路はせいぜい暑くても二十五、六度、暑さに喘ぐ土地の人々にとっては蓋し別天地であらう。同じ道内にあっても中央部内

陸部では内地同様の気温の上昇を見るのを知ってか知らずが「涼を求めて北海道へ」のキャッチフレーズが効いてか年々来道する人が増えていくという。それあらぬか特に大きなリツクを背負ったカニ族の姿が到處で見受けられるのも北国の夏の光景ともいえよう。  
寒さと霧で表現されている釧路が釧路なりの夏の味を満喫させてくれることはこの地に住む私共にとって、たとえそれが短い期間であつても又楽しいものである。  
たとえそれが短い期間であつても又楽しいものである。  
樹間にたとえ蝉の音がなくても霧の間を縫って流れてくる風鈴の音に夏を覚える。  
七月二十日

# 経営者の責務

渡部政雄

「連合艦隊司令長官のまわりに何十人の作戦参謀が居ろうとも作戦決定の断は連合艦隊司令長官が下すのである。従ってどんな大戦も司令長官が一人で戦うのだといつてもよいだろう」とは某氏が戦時中海軍に居た時直属の最高上官浜田吉次郎海軍中将が語った言葉である。この言葉は今なお私の脳裡に深く刻まれている連合艦隊司令長官が作戦の断を下すとき頼りうるのは自分独りであるその心境は「孤独」であると言わなければならない。

経営者としての会社の社長も、また然りである。彼も又日々断崖絶壁に立っていると云つてよいであらう。ひとたび経営政策を誤れば彼は、たちまち転落する、しかし転落するのは彼一人だけではない、社長の転落は会社の転落であり会社の転落は従業員とその家族を路頭に、まよわせ多くの取引先には多大の迷惑をかけるなんとしても企業を安全に前進させなければならない、それには社長自ら常に率先垂範万般に死力を尽すことが絶対に必要である。

## 職場の青少年が背負っているもの 事業内職業訓練生を通じて

米 田

六年間事業内職業訓練所の所長として、毎年五〇名前後の中卒者と訓練を共にして感じた働く青少年の生活環境について述べて見たいと思います。いろいろな調査資料がしめしているように、日本の中小企業の労働力、とくに若い労働力はなんといつても農村出身者がかなり多いのはたしかです。そうしてそれらの出身階層は農家でも比較的下層のものが多くと言うのも事実のようです。また、農村以外の都市出身者をあつてみますと、中小企業の労働者の子弟、下級サラリーマンの子弟、小商店の子弟、その他欠損家庭の子弟などが多く、これまた概して都市における下層生活者の出身が多いといわれております。この意味でまず、なんといいても勤労青少年は幼少から経済的に恵まれない生活を余儀なくされてきたという事は否定できない事実です。ちなみに中学校を卒業して直ちに中小企業に就職した青年達に高校へ進学しなかった理由を訪ねますと、「家庭の事情」「生活難」「手不足」という経済的理由と、「勉強が足りない」「勉強不足」「勉強がすぎでない」などの答えがでてきます。数年前の調査である青年は

「自分からいうのも変ですが、中学校では成績が良かったので、もちろん高校へいきたいと思つたこともありました。家の経済のことを考えると、とてもそんなことを口にするのは出来ませんでした」という心情を訴えるものがありました。現在では中小企業にも高卒者が相当数集まっていることでしょう。しかし、その場合でもかれらは決していわゆるエリート、コースを歩むことをしなかつた青年たちだと思えます。ともあれ、卒直に勤労青少年は一般的には、経済的に恵まれなかつたか、比較的、頭腦的に恵まれなかつたか、あるいはその両方である場合がかなり多いといえるのではないのでしょうか。

ところで、日本の社会ではそのところが青年たちの人間(パーソナリティ)形式に非常に大きな影響力をもつてしまつてゐることを考えてみなければなりません。つぎの作文をごらんください。「中学一年、二年はよかつたけれど、三年になつて進学組と就職組に分かれたことが差別されるはじめだった。ぼくは就職組にいたが、宿題などしていかない生徒がいて、先生は「お前たちは英語や数学はそう必要でないんだから」といわぬばかりの態度で少しも叱らない。こんなことが不愉快で生徒同士の間でヒガミを持つようになった(全国教育研究所連盟編、勤労青年の生活)と学校生活の実感を述べております。中学一二年はまだよかつたといいますが、実は日本の公教育は全般的に教科のできる子、成績のよい子は学級の頂点にかかびががり、陽のあたる場所でき生き生きと生きているのですが、比較的成績のよくない子、できない子はいわゆる劣等生として学級の底辺に沈んでゐることが多いのです。日本の教育現場は歴史的に、そういう仕組をもつていたといえましようが、今日進学の問題とからんでテスト主義、成績主義といわれる学校の現実において、その根がいろいろな形であらわになつてゐるわけです。このような中で、早くから就職の道を選ぶ青少年はもちろん、色々な意味で恵まれない底辺に位置づかざるをえないのは当然です。こうして勤労青少年はその成長のときから自然に、劣等感と言う心理状況を心のどこかに忍び込ませてゐることは否めないところであり、また、したがつて、かれらにとつて就職は、学校生活における欲求不満からのがれる道であり、多少なりとも自分で自由になるお金がかせげると言う経済的貧困から解放される道であつたといえましよう。いや、むしろ働いて収入を得ると言う誇りによつて、劣等感や羨望感へのつぐないにしようと言う意識もしばしばみ

られます。これは親がかりで長い就学の間をもつことのできる人びとには到底はかり知れない、まさしく当事者のみか知ることのできる人間心理と言うものでしょう。

むろん、だから直ちに経営者に安易な同情をしるというのではありませぬ。

ともかく一般的な特徴としてそうした事実を認めないわけにはいかなない社会のしくみの中で青少年が成長していると言ふこと、そして例外は別として勤労青少年がそうした心の負い目をもつて新しい職場に登場してくると言うことを理解しておきたいのです。

さて、胸をはずませて新しい社会に入つて来た青少年たちは、とまどいながらもその社会に早く馴れ、職場に適應しようと果敢な努力を重ねていきます。ところが、少し馴れて多少心身にゆとりをもつようになる、自己の身のまわりにさまざまな問題を知り、いろいろなことを感じとるのが普通です。まず、かれらの心に映るものは①賃金、労働条件のこと②自分の仕事への適性と将来のこと③職場の人間関係のことなどをあげることができましよう。卒直にいつて大企業とちがつて中小企業は作業環境や労働条件がぐまされてゐるとは申されなわけです。そのことのお善、悪は別問題として、事実のおのがどれほど努力してもかなりの開きがでてしまふのは、どうすることでもできない現実ではないでしょうかいくつかの調査結果から青年たちのみた職場についてあげてみましよう。まず「就業時間が長くて困る」「賃金が低い」「福利施設が乏しい」「疲れて休みたたくも休めない」それに「仕事の中でわずかのつまずきでもあれば先輩にひどい目にあはされる」というわけです。実際青年たちによつたつて心をほぐしてみれば、こんな話はいたるところで耳にすることができましよう。そして、中でもかれらにとつて最もつらいのは人間関係だと言ふことです。「仕事は先輩が教えてくれるのですけど、親切に教えてくれる人と、そうでない人があります。仕事のつらいのはまだ、辛抱していけますけど、先輩にいいめられたりして、人のなかがうまくいかないのは辛抱できません」「二〇才位になつたら上の人になんでも言えるようになりますけど、初めは何も言えません。言つても負けてしまふし、余計いじめられます。これがいたら仕事はつらくても、つとまると思ひます」といつておられます。人間の問題はどこでもむずかしいにちがひありませんが、とりわけ中小企業の経営者にとつては従業員問題は心を痛めてゐる重要な事柄であるように思われましよう。中小企業は大企業と違つて、巨大なメカニズムで動いてゐるのではなく、一人ひとりの働きが意味をもつてゐるのですからその仕事に最もふさわしい人を得ることが経営の進展に大きな影響をもつてゐると言われましよう。ところがなかなか容易ではないのでしよ

もあれ、現在の段階では青年たちが入っていく職場は複雑でむずかしい人間の環境であると言えましよう。そこで働く青少年たちが尊敬できる指導者としてあげているのは大体の場合「態度が親切で威張らない人」「作業についていいいに教えてくれる人」「だれに対しても公平に扱ってくれる人」と言うように答えま

# 交通戦争

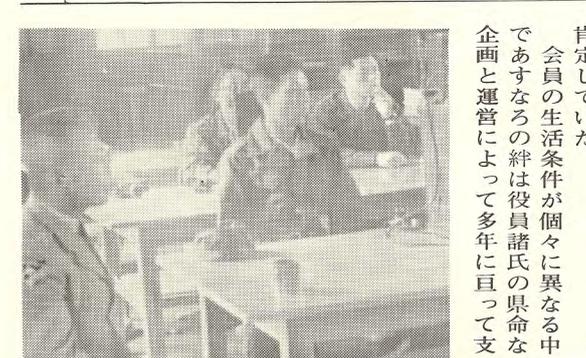
川田春旭

す。特に「親切」と「公平」と言うことがこれらの頭にしみついていて事柄のようです。(日本労働協会職場と青少年より)以上が中小企業に働く勤労青少年の社会的背景と、生活の実態です。これらのことと関連して青年たちはどんな意識をもっているかを追求すべきでないかと思

七月のアスナクラブの例会は、交通安全に関するお話と、目を被うばかりの交通事故の映画でございしました。特に映画は一瞬の事故の非惨さをまざまざと見せつけられ、今更ながら交通戦争の恐ろしさを知った訳です。そして更に恐るべき事は、此の様な生々しい大きな犠牲が、年を経るにしたがって急増し、ひしひしとして我々の身辺に感じられて来た事でございます。

ので、あるいは家族の者でもいくらか落付きというものがあると思えます。けれども此の交通戦争の犠牲たるや、本人は平和そのものから一瞬に無の世界に入り、家族たるや平和から一瞬の内に奈落の淵に落ち込むのでございます。事故の内容をかいつまんで申しますと、当日は甥を始め友人等と三人で帯広に遊びに行き、その帰途でございます。位置は国道三十八号線、丁度豊頃の大橋より帯広寄りに約一軒程の地点でございます。状況を申しますと、日曜でございますので行き交う車も郊外とはいえ、可成混雑してをった様です。雨上りの国道、相手方の車は大型貨物車、釧路本州製紙にパルプ材を運んだ帰り車、時刻も夕方近いので帰

途を急いだに違いない。前方に三台程の車が列をなして走っている。追越しをかける。併し車道が雨で濡れているのとスピードのために、何時の様に思うまにハンドルが切れない。一生県命に切る。切りすぎた。あつという間に左側のコンクリートの土留に接触、二転三転、反動のため猛烈な急いで国道に向かって右側に跳ねかえされると同時に、先方から来た乗用車に激突、一瞬の間の大事故、警察の調査によると追越しから事故発生迄、実に驚くなれ僅か三秒間、即死の甥は十六才の高校二年生、同乗の他の二名もそれぞれ瀕死の重傷、加害者は二十三才の農家のアルバイト運転手、判決は過失致死による禁固一ヶ年と、莫大なる罰金、其の外にまだ解決せぬ慰謝料被害者も加害者も、いづれをも大きな損害と犠牲と悔悟ではないでしょうか。



## あすなるアルバムより

あすなるが誕生して以来六年を閲し此の程、種々、多くの行事が行はれてきたが、私が一番印象深く忘れられない、想い出の一つに「一日自衛官」の一泊研修がある。「兵営は苦楽をともにする軍人の家庭にして……」であつたか……。旧軍隊のノスタルジヤがそうさせたのか、あの汗くさい一日の。会員のプロフィールが、とても忘られない。上田連隊長とは、私的にジツコンに願っていた関係、その後もチヨイチヨイ自衛官の生活にふれてきたがやはり男の中の男の生活には、又得も言えぬ良さがある事に、終始私は肯定していた。

会員の生活条件が個々に異なる中であすなるの絆は役員諸氏の県命な企画と運営によって多年に亘って支えられて来た事は、一見不可思議の様にも思はれるのだが、多年に培われた同志感が、連帯感が、底流しているからだろうか……。市議、市長選の異様な紛囂気が開幕百年の全市を覆っているが、吾々会員の胸底には、言はず語らずの中に次期市長の像が固りつ、あるが、吾々の信条にもある郷土を愛する為めにも同志の絆を確めあつて積極的に、渡部五郎氏を後援する事もその前進に連なると思うのだが、その手段方法は、俄儀会長を始め役員諸氏にご一考いたたく事にして何等かの形で、吾々会員の団結の力を示すべきであろうと思うが如何……あすなるアルバムを、ひもといている中にその様な雑感が湧いてきたのである。

梶

# お別れに際し

## あすなるくらぶの発展を祈る

大 宮 豊 穎

会員諸兄 すでに高承下さって  
おります通り、この度、私の所属す  
る職場、丸文が、道内七社の卸問屋  
の企業合併に参加すること、なりま  
して、愈々八月一日を期して、新会  
社が発足すること、なりました。

就きましては、私は、札幌の本社  
の常務と言う事でございまして、札  
幌に参ること、なつてしまいました  
ただ私が本社に在つて、手がけま  
す事は、社長の経営理念又は方針と  
言つたものが、本社機構及び道内十  
二ヶ所の営業所の末端にまで、浸透  
しているかどうか、又実施されてい  
るかどうかと言う事を調べたり、逆  
に末端からの意見や計画などを、最  
終決定に持ち込む前の立案段階で調  
整したり助言したりする、と言うも  
のでありまして、普通、コーディネ  
ーター (COORDINATOR)  
と称しており、直訳して「総合調整  
役」と言うのださうでございませ

こんな訳でございますので、懐し  
の釧路には又、チヨイ／＼参る事に  
もなりませんので、あすなるくらぶの  
諸兄にも、ご懇誼を続けて頂けるも  
のと、思い、喜んでおります。  
思えば今から丁度丸文七年前、釧路  
に参りました時、一応社社と言う事  
ではありましたが、スムーズに

入会させて頂きまして会員にならせ  
て頂いた事は、何とも有難い事でし  
た。と申しますのは、何分にも釧路  
と言う街は、初めての土地でありま  
した事と、職業が百八十度の転換で  
会う人話す人、すべてがお客様と言  
う事で、気の休まるひまもない毎日  
でありました私に、月に一度のあす  
なるくらぶでの一とき、職業も年功  
も地位・経験など、すべてに關係な  
く諸先輩の間に入って談笑の仲間入  
りをさせて貰つた事が、当時の私に  
とりまして、どんなにか楽しくうれ  
しく心のやすらぎになつた事でござ  
いまして。  
札幌を出る時、釧路の人は人情が  
厚く、すぐ友達になれますよ」と助  
言してくれた人が居ましたが、それ  
を私はまつ先に、あすなる諸兄によ  
つて恵まれたのでした。  
この度、何のおかえしもせず、  
むしろ後半は、仕事に追われて欠席  
が目立つてご迷惑のかけつ放しで去  
ります事は、何とも心苦しゅうござ  
います。  
そこで一言、諸兄諸先輩の経営さ  
れる職場が、更に立派になるように  
私の経験(拙いものながら)から社  
員教育の「出発点」を、申し上げて  
行き度いと思ひます。

社員教育などと申しますと大へん  
に面倒に思えますが実はそうではあ  
りません。(学校教育とは、異質の  
もののようです)

社員教育の出発点は、社員の一人  
一人に、各々一つの「持ちもの」(こ  
れだけは誰にも負けないぞと言う  
自信のあるもの)をもたせる事に尽  
きるようです。私は今迄、社内社外  
を問わず、多くの人に、「ハイッ」  
と言う、はぎれのよい明るく気持の  
よい返事を、自分の「持ちもの」に  
しなさい、と奨めて来ました。「ハ  
イッ」と言う明るい返事は、他人に  
良い印象を与えます。本人の意欲が  
目に見えるように相手に伝わります  
それは誤解をとき、難問題を解決し  
ます。「ハイッ／＼」と言う明るい  
返事が、あちこちにこだまするよう  
な職場は、必ず繁栄いたしましよ  
う。

この他、電話ではぎれのよい応  
待、「いらっしやいませ」と大きな  
声で挨拶すること、いろ／＼持ちも  
のは、ありましよう。  
諸兄の会社の方々に何か一つの「  
もちもの」をもたせて上げて下さい  
会社は見る／＼内に変容をとげて参  
りましよう。

大へん生意気な事を押しつけがま  
しく申しましたが、私が丸文七年の  
経験から得た、社員教育の出発点と  
言う自信でございます。  
今の若い人たちは、目立ちたがる  
ものです。女の子みたいな赤毛の長  
髪の子、超ミニとか言つて、ひ  
どく短かいスカートの女の子(私は

腹巻きがさがつてゐるのではないかと  
思つた事さえあります)、こうして  
目立つのも良からうけれど、もつと  
他に、明るく、感じのよい目立ち方  
もある事を、若い人に教えてやるた  
めにも、私は、あえて諸兄に申し送  
らせて頂きます。

# 仕事を おろそかに しない 部下

安 藤

永い間、ありがとうございました。  
いづれ、例に顔を出させて頂いて  
ご挨拶とお礼を申し上げ度いと存じ  
ております。

あすなるくらぶのご発展と会員諸  
先輩のご事業のご繁栄をお祈り申上  
ります。

冬のある寒い日に箱根のK園で目  
にとまったひとこまがいまも忘れら  
れない、それは久保田鉄工の代理店  
会議で、屋外に展示された新製品の  
徹取作業の折だった。お客さんが全  
部引きあげてしまったのがらしの吹  
きつける道ばたでそれがはじまった  
テントをた、むもの、機械を梱包し  
それをトラックに積み込むもの、そ  
のいづれの動作もキビキビしていて  
気がよかつた、やがて一段落する  
と、みんながホウキを手にして掃き  
清め出した、それは、文字通り掃き  
清めるといふ表現がピッタリあては  
まる、小さなワラくずを手でひろい  
あげ坑の抜かれた穴にはスコップで  
土が運ばれ掌でいねいにたたいて  
いる、砂利がならされ、ほんの小さ  
なゴミもあとをとどめぬところまで  
つづけられた、普通なら、お祭さわ  
わぎの展示会であるし、多勢で宿泊  
たよしみでだいたい片づけたらあと

はK園まかせ、となるところだ。私  
はこの一部始終を、その現場の真上  
にある部屋のなかからじつと見つめ  
ていた。そしてなんでもない行為で  
はあるが、胸が熱くなつた。こうい  
うしつけを指導者はどんな人か、  
一度ぜひ会つてみたい思ひにかられ  
た。それから一カ月後に私は、堺に  
あるその工場を訪れた。そこで当日  
あのように振舞つた人たちが営繕や  
製品発送といういちばん縁の下の力  
持ち的な存在であることを知つた。  
その責任者である年輩の課長は、当  
然の行為だといって、私に何も語り  
たがらなかつた、手をかえ、品をか  
えて聞いてきた。していくうちに、私  
の相像通り地味な職場になう指導  
者の哲理のようなものに触れること  
ができた。彼はこういつた「私に与  
えられた仕事は、下積みで地味な仕  
味ですが、この工場という共同社会  
のなかで、お前に担当させればだれ

にも劣らずやりとげるだろう……  
という周囲の期待がもたらしたものだ  
と考へたいのです。私は部下にも  
その気持で誇りを持ってやるよう日  
ごろ説いてきました。ですから掃  
寮婦のおばさんでも、このポルトは  
まだ使えるんじゃないですか……と  
持ってきてくれるんです。あのK園  
の徹取作業も、日常の態度がそのま  
ま現われただけだと思います。ただ、  
あそこに出かけていく連中に、新製

# 忘れられた会報「あすなる」

今 田 英 二

品はその年の私たちの糧を生み出し  
てくれるものだから、どこに展  
示しようと、そこは床の間つきの奥  
座敷だという気持でいこう……と申  
し合わせたのです。お座敷はていね  
いにあとかたづけをするのが当然で  
すから、それがお目にとまったまで  
です」と。

「部下をもつ人の条件」より  
山田 宏著

私達のクラブ誌が休刊になって  
もう何ヶ月になるだろうか？ 毎月の  
例会には必ずという位話題にあがり  
ながら、ついつい次の月もその又次  
の月も私達の手元には届かない。  
毎会の折に役員各位から声をかけら  
れながらそれが出来ない。  
言葉では毎日何万語もおしやべりし  
ていながら、いざペンを持つと、そ  
れとは、うらはらに筆が進まないの  
が本音である。

出来あがった自分の活字に対して  
或る種の嫌悪感がつきまとい折角書  
いても破いてしまう。又書こうとす  
ると同じ現象を生じて益々書く事を  
にぶらしてしまう。  
その点私達は反省しなければならな

い。毎日駄辯を発声する言葉には、  
あまり責任を感じていないで、書く  
事には重大な責任を感じているの  
はないか。だから日本人は、何か事  
故の起る状況の取引とか約束には  
証書や契約書を作りたがる。もつと  
自分の言った言語にも責任を持つべ  
きだ。

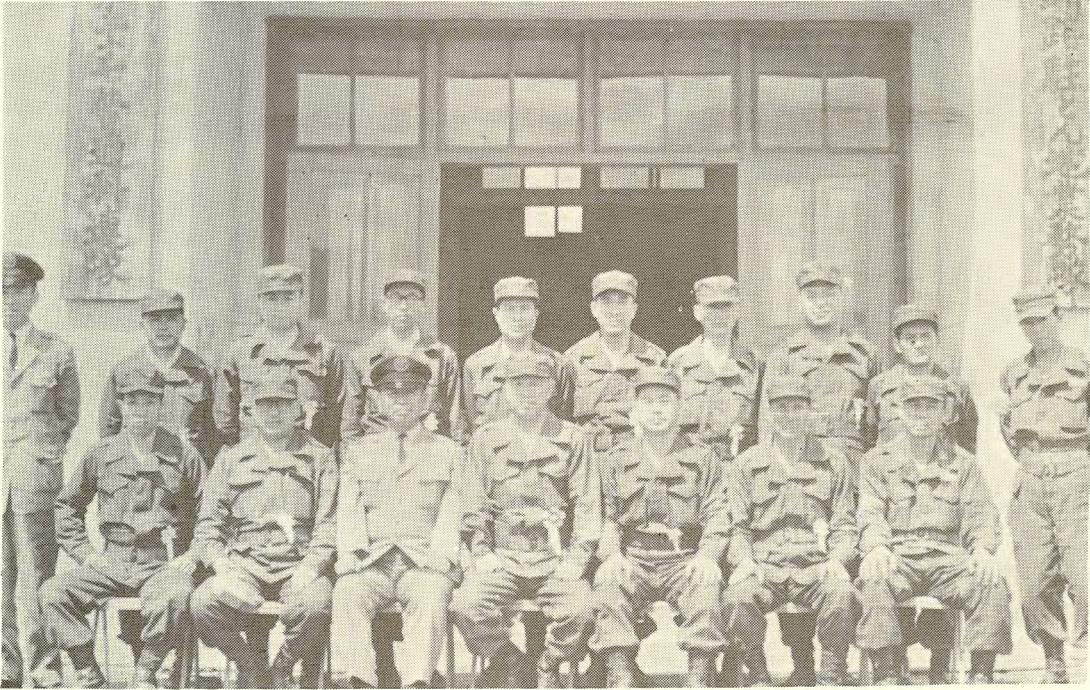
或る小説家が飯の種の筆が進まず  
先輩の大先生にその秘訣をきいたが  
その先輩は「毎日話している様にそ  
のま、書けば良いのですよ」 論さ  
れた事を何かの本で、読んだ事があ  
る  
だが素人の私達には、これ又むずか  
しい。  
毎日の会話をそのま、文にする事な

ぞは神技にも近い話だ。  
専門の小説家や新聞記者でもない  
私達が上手に文作をややつたり、  
人に教訓めいた事が書ける訳でもな  
く、唯自分の教養の為に、そして自  
己万足の為に書く事で良いではない  
か。

それが読む人に感銘をあたえたり  
良く出来ていると、ほめられたりす  
る事のない、素人文であるならば、  
気の向くま、自分自身の本日今日  
を、そのま、に筆にまかせて、雑文  
でも、誤文でも書いて見たいものだ  
何年も後に、先に書いた頃の迷作  
品を読んであの頃はこんな考えを持  
っていたのかと過去を振かえるのも  
面白い。

私達の愛するクラブ誌に毎回自分  
だけの歴史を記そうしてお互に悩  
める恥をさらそうではないか、気の  
合った友人同志で、それを批判し許  
って頂きたい。義務的であっても毎  
回二、三行の文でも、詩でも出して  
活字になった己の作品にたのしみを  
味合おうではないか。

誤字、雑文、文法等は糞くらえで  
どんなものでも大歓迎、あすなるだ  
けの文豪は貴方達だシエクスピアー  
は○さんがなれ、ユーゴーは×君だ  
そして私はさしづめ、あすなる詩の  
藤村にでもなつて、天下に迷文を送  
ろう。  
七月二十日



あすなるアルバムより

# 私の家族

松田忠

私の家族は夫婦二人と男の子供一人の三人暮しである。

と言えは無事も無い様で有るが家族三人の他に同居の数の方が多いのである。

同居と言っても人間ではない。私は小さい頃より犬、猫、小鳥等を切らす事なく飼って居る。

今迄、小鳥でも、カナリヤ、インコ、文鳥等、又野鳥も、ヒワ、ウソ、駒鳥等数十種になるだろうと思う。犬もそうであろう。アイヌ犬を始めコリー、スピッツ等十匹程も飼って見た。

猫の方は雑種とシヤム猫を飼って見た、その他に、金魚、熱帯魚等である。

飼えるもので手に入れる物ならなんでも飼って見た。

現在でも、犬は、満十六才になる雄のスピッツが元気で居る。犬の十六才と言うと人間の年令にすると百才以上の年令になるのだそうだ、

最近、耳が遠くなったと見えて小さい声で呼んでも見向きもしなくなつた様で有る。

五、六年前のことである

雀を飼って見た。ある日、子供がどこから捕って来たのか帽子の中にまだ毛の生え揃はない赤むくれの子雀

を入れて帰って来た。数えて見ると五匹いる。

はじめの内は静かだったがそのうちに腹でも空いたのである物音がすると親でも来たと思うのだから体に似合ず大きな口を開いて、パイパイと飼の催促である。

家には小鳥の飼はあるが小雀に与える飼は無いので大急ぎ小鳥屋へ行き摺飼を買って来て与える。

腹のふくれる迄大きな口を開け鳴いて催促している。五日、十日、と過ぎると私達を見ると飼を呉れるものと思ひ大きな口を開けて催促である。

二十日位になると、どうやら姿も雀らしくなり少し飛べる様うにもなつて来た。

その頃より摺飼を普通の粒飼に替えていったのであるが、たま／＼私達の食事の時に御飯を雀に与えるがそれが又、雀の好物と見えて大変なさわぎである。食事になると別の茶碗に一つ雀用の御飯を用意するのである五匹の雀は茶碗を丸く囲み頭を付込んで喰べているのである、とんだ食事風景である。

あまりうるさいので鳥籠の中に入れて食事をしてると籠の中でパイパイと泣き、出して呉れと籠の入口の方でぱた／＼と羽ばたき出して呉

れる迄さわいでいる。

あまりうるさいので籠の口を明けてやると一齋に御飯めがけて、急降下である。

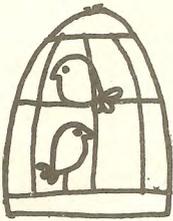
五匹が家中を飛び廻り、又腹が空いて来ると何か呉れと私達の後を付いて飛び廻り体中止まる処があるところかまわず止ってパイパイの催促、台所はもちろんの事家の外、トイレの中に迄付いて来るのである。

その後その内の一匹だけを残して近所の家や友人に雀を別けてしまった。後でわかったが家に残した雀は雄雀であった。

残した雀は良い声でさえずる雀だ雀がこんな良い声で鳴くとは知らなかった、机の上や、本棚の上などで良く鳴いていたが三年目の春の日、家の外へ出たまゝ、帰って来なくなつてしまった。いくら呼んでも帰って来ない。

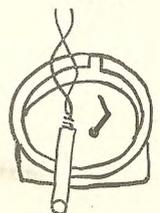
今迄は家の外へ出しても帰って来たのだが？

外で良い彼女でも見つけて暮しているのであろう。窓より外を見ていて、屋根の上の雀を見ると思ひ出すのである。我が家の「ピコ」ではないかと。



# 禁煙二年の弁

最上



煙草を喫はなくなつてから丁度満二年になる。私の性格を知る友人先輩は一年目位がヤマである当初御宜託を下したものです。

セールの折に手持無沙汰ではないか、どこかお加減が悪いのですか肺癆が恐いんですか、良く心捧が出来ますね、此の二年間随分といろんな事を言はれたものです。どうやらあいつは喫はないと言う事に定着した様にも思ひ現状ではこゝ、当分煙草を手にしなさいで暮せそうなのがす。こゝで私に煙草を止めさせるに至つた動機をお知らせする事により発端となつた先輩に感謝の意をあらわす事にもなると思う。

煙草と縁を切つたのが四十二年七月の役員会の翌朝からとなるから早いものである私としては四十二才の

大厄の年でもあるから記念すべき事ではあるに違ひないかそんな真面目な気持では決してない。

会が終つてから、イナチヤン、コ一さんと久し振りに一寸と戦線統一の意味もあり例の留木に鎮座すること一五〇分遂に方向音痴と相成り先輩の誘導で無事館入りになつた次第過労の上のオールナイトとなつては翌朝の迷路模索も全くつながらず反省と悔恨をくり返しておる頭上で「アンタッ布団を焼く位は私で行か出来ませんが、商品や家を焼いたら世間や会社にどうおわびするのですか、此の有様はなんです」ばさつと拵けてハッタと睨み更に「普段アンタの尊敬するコ一さんは煙草を喫はないんでしたまには良いところもまねたらどうです」。合掌

## 事務局よりお詫び

事情がございまして会報発行が遅れ心よりお詫び申し上げます。此の度の会報発行に当りましては、取筆者を御指名御依頼申し上げます。また早速次回会報準備に入りましたので、皆さん振って御応募下されば幸と存じます。何々くれぐれも御協力をお願い致します。

皆さん心良く御了承御投稿をしていただき有難うございました。又々早速次回会報準備に入りましたので、皆さん振って御応募下されば幸と存じます。何々くれぐれも御協力をお願い致します。